

## 平成28年度第2回学校評議員会報告「提言等のまとめ」

- 1 期 日 平成29年2月23日（木）10:00～12:00  
2月27日（月）12:30～14:00

※ 多くの学校評議員の意見を伺うため、2日にわたって時間を設定し、どちらかに出席していただいた。学校からの配付資料・説明内容は同一である。

- 2 場 所 本校 校長室

- 3 出席者

学校評議員	佐藤 亥 壱	（八幡平市立西根中学校長）
	佐々木 マリ子	（八幡平市男女共同参画サポーター）
	古川 栄美子	（特別養護老人ホーム繫松苑施設長）
	畠山 城 司	（八幡平市寺田コミュニティセンター長）
	田村 昌 則	（株式会社エッグデリカ代表取締役）*ご都合により欠席
学校側	岩 渕 健 一	（校長）
	伊 藤 浩 昭	（副校長）
	西 里 君 江	（事務長）

- 4 委員会報告

- (1) 説明（校長）

《 概況 》 70周年を来年（H30年度）に迫っている。それに向けた取り組みや、制服や家政科のコース名・教育課程の変更など、様々な機会を捉えて学校をPRしたい。H31年度には高校再編計画による学級減が示されているので、生徒数確保に向けて魅力ある学校づくりをさらに進めていきたい。

2回目の学校評議員会となる今回は、この1年間の本校における教育活動の総括と、来年度に向けた提言をお願いしたい。

- 《 資料による説明 》

- ア 平成28年度3学年の進路決定状況について

\* 例年とは逆に進学希望の方が就職希望より多い学年だった。

就職希望者は、12月までに全員が内定を得た。ほとんどが管内に就職する。進学希望者に関しても、既に全員が進学先を決定している。国公立大学に5名合格しているが、過去最高と並ぶ実績である。今後は10名合格を目標に掲げて進学指導の充実を図りたい。私立大学進学者の半数はスポーツ推薦であるが、一般入試合格者も多いのが今年度の特徴である。

就職、進学ともに進路決定率は100%である。

- イ 平成28年度部活動・対外活動の成績について

\* 全国大会出場は、スキー部、相撲部の他にも、美術部が「全国高校版画選手権」に2年連続で出場する。家庭クラブも、高校家庭クラブ連盟研究発表大会東北ブロック大会に県代表として3年連続で出場する。この間、研究テーマは地元に着したものである。立派だと思う。

- ウ 未来創造人サポート事業について

\* そば打ち講習会・紫薫枕の製作（53年目 200個近く製作して寄贈）・紫根染めによるハンカチ等の製作（卒業生や山田町の仮設住宅のご高齢の方たちへ寄贈）など特色ある活動をしている。

- エ 復興交流事業について

\* 継続的に次の4つの事業と紫薫祭における募金活動を行っているが、今後は予算の関係もあり、実施内容の検討が必要である。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| ① 山田町での八幡平市の物産PR  | ② 山田高校との生徒会交流 |
| ③ 宮古北高校を招いてのスキー交流 | ④ 山田町仮設団地訪問   |

## オ 学校評価アンケートについて

\* 質問項目毎の評価については、特に高い評価と特に低い評価が減り、4点満点中3点前後に近づいたのが特徴である。学校が安定してきたと受け止められる面と活気が足りない指摘されている面があると認識している。

その中で、「生徒が相談しやすい雰囲気であるか」「授業が満足できるものであるか」については、継続して低い評価になっているので、改善を図る必要性を感じている。

また今回は、学校評議員の方々に生徒と保護者の生の声を知っていただきたいと考え、アンケートの自由記述をそのままの文面でご覧いただいた。学校としても、適切な形で整理して、回答をホームページに掲載する予定である。

## (2) 質疑応答（学校評議員からの質問と学校側の回答）

学校評議員A 生徒数の確保に向けて、家政科学科を観光科や保育科にするのもいいのではないかという声が地域から聞こえてくる。校長としてはどう思うか。

校長から そのような考えがあることは承知しているし、学校がよい方向に進む見通しははっきりすれば、検討することを避ける理由はない。ただし、現時点ですぐには動きにくいと思うのは次の3点のためである。①観光科や保育科が誰のニーズによるものか、という点。現在の中学生や小学生に、将来の希望職種として観光業や保育士が多く、学科変更が40名という定数確保に繋がるか、現状把握が必要と考える。本校の生徒の多くは、入学後に大きな伸びを見せ、その過程で自分に合った職業を見つけている。観光や保育に特化した学科は、入学希望者の入り口を狭める懸念がないか分析したい。②県内の他校においては新設学科が長続きしている例は少ない、という点。本校の家政科学科は30年続き、その前身の家政科から数えれば50年以上の歴史があり、奇跡的とも言える長さである。それだけ、家政科学科は地元に着し支持される教育活動を実践してきたと考えている。また、観光業や保育士への道も含まれた学科でもあり、進路選択の多様性の点からも大切にすべき学科であると思っている。③手続き上、困難が多いという点。学科改変は県議会での協議・承認が必要であり、蒸気の①②を含め、様々な観点からの実証が求められる。

以上のことから、現状としては家政科学科の魅力をアップすることや、その実践を広く理解してもらうことの方が優先と考え、プレゼン活動に励んでいるところである。

学校評議員B 平館高校が2学級になってしまうのは、地域にとって本当に痛手である。中学校でも部の統廃合が避けられない状況が生じている。このあたりはどう考えているか。

校長から 部の統廃合は高校でも深刻な課題であり、H29年度の重要事項である。大会参加を優先して、部員の多い部を残すという案、活動の選択肢の保障を優先して、大会に参加できなくてもいいから多くの部を残すという案、それぞれ一長一短がある。

私は職員に対して、地域の小中高校の活動を見通した上で統廃合を考える視点が必要なのではないかと訴えている。各中学校で統廃合を経て残した部や、連合チームを編成して活動した部が本校に用意されていれば、生徒たちにとって継続した部活動が可能となり、望ましいのではないかと考えている。

学校評議員C 高校再編計画による学級減に伴う教職員のマンパワーの不足については、とても心配している。八幡平市の支援があることは心強いが、学力向上・進学対策とともに、特別な支援が必要な生徒たちへの手厚い指導を今後も継続してほしい。このことについては、どのような見通しであるか。

校長から 学級減が実施されれば、3年間で5名以上の教員が減じる可能性があるとともに、入学の定員が80名となることで受け入れ枠自体が狭くなるという現実に対応しなければならないのは事実である。

本校は、地域に一つだけの高校ということで、進学にも就職にも学び直しが必要な生徒たちにも丁寧に対応することが求められている。その実現は学校の存在意義でもあるので、何かの取り組みに偏ることなく、今後も多様な生徒たちをそれぞれ大切にできるよう、様々な工夫をしていきたい。

学校評議員D 学校評価で指摘されている学校の整備状況については、どのように考えているか。

校長から 限られた予算での対応となるが、生徒の安全面を最優先としながら施設・設備の改善を図っている。今年度は紫薫館（セミナーハウス）のシロアリ駆除や塗装、ボイラー配管の保守などに取り組んでいる。作業の成果が分かりにくくあまり目立たないが、着実に改善が図られていると思っている。

グラウンドの整備については、かなり大がかりな作業になり、県の予算が付くか見通せない。照明設備の増設などに、学校予算として対応できるか、検討が必要である。父母会や地域の応援があって施設が充実している部活動もあるが、学校として、一部の部活動について優先していることはない。

学校評議員C 学校評価で授業満足度の項目で教職員を含めて低い評価になっていることと、学校との連携や部活動関連で保護者の評価が低いことが気になるが、どのように考えているか。

校長から 授業の改善は常に取り組むべきことである。生徒の満足度については、授業評価における各科目のデータに現れている改善点を教職員それぞれが謙虚に受け止めることで、高めていけるようにしていきたい。教職員自身の評価が厳しいのは、そのような点を踏まえたことによるものと考えている。「教職員の授業力向上による生徒の学力向上」は、学校教育の基本であるので大切にしている。

保護者対応については、評価が低い原因や真意を様々な機会を通じて把握したい。電話での適切な受け答えについての校内研修も行っているが、言葉遣いや迅速な対応などについて、改善を図りたい。

部活動における指摘についても、学校全体に関わるのか、そのお子さんが所属している部についての評価なのかを、別のアンケートを実施するなどして把握したい。

施設設備に関する点は、改善に努めるとともに、現在の取り組みについての説明もPTA総会などの機会を活用して進めたい。

学校評議員B 学校評価や授業評価について、生徒や保護者の考えに耳を傾けることは大切なことではあるが、特殊なケースについてはそれなりの対応が必要と考えられる。「評価」という言葉によって立場を錯覚する生徒がいるのではないかと思うが、どう考えるか。

校長から どちらの評価についても、寄せられた意見を真摯に受け止めるべきものと考えている。ただ、ホームページなどに掲載する際には、生の声をそのまま用いていいものか疑問があり、昨年度から公表の形式を変更した。

ご指摘の「生徒の錯覚」については、こうした評価の意義や目的が「学校をよりよくするための生産的な意見を募ることにある」という点を、事前に十分に説明することで防止したい。

### (3) 提言・意見

学校評議員A 学校評議員として、OBではない立場で3年間平高を見てきて意識が変わった。地域にとって大切な、いい学校である。柔らかい雰囲気であり、悪い噂も聞こえてこない。

ただし、少しアピール不足なのかも知れない。学校の良さをもっとPRして、中学生が盛岡の高校に流れないようにしてほしい。

学校評議員B 自分の子どもが高校に進学するタイミングで学校評議員となり、いろいろと勉

強くなった。今年度の入試では、盛岡の高校をチャレンジする中学生が多いと聞いているが、それは平高の評価が低いからではない。

平高が進学に向けた取り組みを強化し、課外授業なども積極的に行っていることは地域の保護者に伝わっているし、制服が新しくなることを楽しみにしている中学生もいる。家庭のサポートが確立している進学校のシステムをそのままは使えないと思うが、平高独自の方法で取り組んでほしい。

学級減になることは痛い。自分は本校の卒業生なので、70周年の時に何ができるか考えているところだ。

学校評議員C 市の教育振興推進大会での生徒のプレゼンはとてもよかった。全部の中学校で同じようなことを行ってアピールしてほしい。

国体の時に会った生徒たちは「高校生活が楽しい」と言っていた。何よりである。生徒が元気に挨拶してくれることも、学校の良さを表している。

学校評価では厳しい指摘もあるが、最も大切な最後の項目で、平高に入学してよかったという生徒・入学させてよかったという保護者が9割近いのは、立派なことである。

学校評価の自由記述においては、責任ある意見を募るために記名式にするのも、一つの方法である。検討してもよいかも知れない。

学校評議員D 評議員になって平高の良さがいろいろと分かった。

多様な生徒への教育を両立することはとても重要である。「世の中には様々な方がいる。ともに生きることが大切である」という共生社会の理念を、高校の教育現場でも同じ空間の中で実践してほしい。

学校評価の自由記述は、Cさんも指摘しているとおおり、無記名のためなのか、言葉が荒い印象がある。

学校設備の維持管理に努めていることは、ぜひ保護者にも伝えてほしい。部活動場所の環境整備についても、草むしりや石拾いなど自分の部の活動のために生徒が個人でできることは取り入れてもいいのではないかと。そのプロセスが大切なのであり、与えられた環境の中で何をしてきたかが部活動では重要ではないかと考える。

#### (4) 校長から

お忙しい中でお越しいただき、貴重なご意見を頂戴できたことに感謝します。3年間、お務めいただいたお二人には、大変お世話になりました。今後とも折に触れて本校へのご提言をお願いしたいと思います。

本日のご意見は教職員にも周知を図り、来年度の教育活動に生かしていきたいと思えます。特に学校のPRについては、八幡平市から多くの情報提供の機会をいただくという有り難い支援を受けているので、より充実を図っていきたく考えています。

本当にありがとうございました。

